



人権平和資料館だより

2018年(平成30年)9月

HUMAN RIGHTS & PEACE 第256号

人権と平和は

21世紀のキーワード

jinken-heiwa-shiryokan@city.fukuyama.hiroshima.jp

〒720-0061 福山市丸之内1-1-1

TEL 924-6789 FAX 924-6850

世界人権宣言70周年記念企画展

「世界人権宣言とホロコースト」 ～ユダヤ人差別が生んだ大量虐殺～

ホロコースト記念館連携事業

期間 9月7日(金)～11月25日(日)

本年は、世界人権宣言が、国連の第3回総会で採択されて、70周年という記念すべき年にあたっています。世界人権宣言は、人類に多大な惨禍をもたらした第二次世界大戦を痛烈に反省することの中から生み出されました。それ故、同宣言の基本精神は「差別を撤廃し人権を確立することが恒久平和を実現する確実な道であること」を明らかにするとともに、差別撤廃と人権確立のために、国際連帯の重要性が強調されています。しかし、今日の世界情勢をみると、自国の利益を優先する政策や、そのために国の指導者に権力を集中する動きが見えてきています。私たちは今一度世界人権宣言の発端となったナチスによるホロコーストが、どのようなものであったかを振り返り、すべての人々が平等に持っている、人権と命についてともに考えていきましょう。



ナチスによって連行される少年

ナチスによって連行される少年

ホロコーストとは・・・

「ホロコースト」とは、ギリシャ語で「火で焼かれたいけにえ」を意味します。17世紀末には「大虐殺、皆殺し」を意味するようになりました。現在では「ナチス・ドイツ」による、600万人のユダヤ人を中心とした大量虐殺をあらわす言葉」として知られています。1948年(昭和23年)の国連総会は大量虐殺という犯罪を、「明確な意図をもって国家、文化、人種、宗教などで結ばれた人々を全員あるいは一部、殺りくする行為」と定義しました。ホロコーストはその実例です。

ホロコースト記念館連携事業

◎今回の企画展をはじめ、ホロコースト記念館では『子どもの教育と人権の父』コルチャック」特別展を同時開催しております。是非こちらにもお越しください。

◎スタンプラリー参加者に記念品プレゼント

- ・日時 10月20日(土)・21日(日)
9時30分から17時まで
- ・会場 人権平和資料館とホロコースト記念館

講演会 「ナチスから

入場無料

人権を守った人々」

講師 ホロコースト記念館館長 大塚 信 さん

■日時 9月30日(日) 午後1時30分～

■場所 人権平和資料館

プロフィール

1949年(昭和24年)京都市に生まれる。恩師大槻武二牧師の生きざまにひかれて牧師の道をめざす。ロゴス神学院卒業後、イスラエルに留学し、ヘブル語を学ぶ。1991年(平成3年)福山市の聖イエス会御幸教会に牧師として就任。1995年(平成7年)日本最初のホロコースト記念館を設立。2000年(平成12年)1月、広島文化財団より、国際交流奨励賞を受賞。東京に開かれたホロコースト教育資料センターのチーフアドバイザーも務める。また、国際会議にも積極的に参加し、日本におけるホロコーストについての取組みを紹介している。



映画会 「アンネの日記第三章」

入場無料

～閉ざされた世界の扉～

■日時 10月7日(日) ①午前10時00分～ ②午後1時30分～

■場所 人権平和資料館

アメリカ、NYのイーヴォ研究所で2005年(平成17年)に、アンネ・フランクの父オットーの書簡が発見された。それは、ナチスの迫害から逃れるために、アメリカへの移住の道を必死に模索していたオットーの涙ぐましい努力を伝えるものだった。「どうか娘たちだけでも・・・」オットーは友人を頼って、窮状を訴え続けた。しかし当時、世界の国々はユダヤ難民を受け入れようとはしなかった。オットーは行き場がないことを悟り、最後の手段として、オランダ・アムステルダムの隠れ家に家族とともに潜伏する。1944年(昭和19年)夏、隠れ家が見つかり、家族全員アウシュヴィッツへ送られる。そして、1945年(昭和20年)アンネはドイツのベルゲン・ベルゼン収容所で死亡。本作品は、アンネの家族でただ一人生還した父オットーらの証言を通して、ホロコーストの教訓を今を生きる私たちに投げかける。



(資料提供：ホロコースト教育資料センター)